

平成 30 年度
南アルプス動植物環境調査 結果報告書

環境局環境創造課

令和元年 7 月

目 次

1	調査の目的.....	2
2	調査概要.....	2
2-1	調査項目及び調査方法.....	2
2-2	調査地区及び回数.....	3
2-3	調査実施者.....	3
3	調査結果.....	5
3-1	植物.....	5
3-2	哺乳類.....	7
3-3	鳥類.....	8
3-4	両生類・爬虫類.....	9
3-5	淡水魚類.....	9
3-6	昆虫類.....	10
3-7	底生動物.....	11
4	考察.....	12

※重要種とは、文化財保護法、種の保存法及び環境省・静岡県版レッドリスト掲載種、国立公園指定植物から市が本調査において重要と位置付けた種を示す。

※指標種とは、上記重要種及びその他の種のうち平成27年度南アルプス動植物環境調査よりモニタリング対象とした種を示す。

※表中、「リニア」とあるものは、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書（平成26年8月）（静岡県）」、「確認調査結果【静岡県】（平成27年6月）（東海旅客鉄道株式会社）」及び「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書（平成26年8月）（静岡県）」に基づく事後調査報告書（導水路トンネル等に係る調査及び影響検討結果）資料編（平成29年1月）（東海旅客鉄道株式会社）」の各調査における現地調査で確認された種を示す。

※表中の記号は下記のとおり

カテゴリー	基本概念	記号
絶滅	既に絶滅したと考えられる種	EX
野生絶滅	飼育・栽培下でのみ存続している種	EW
絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種	
ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	CR
ⅠB類	ⅠAほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	EN
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種	VU
準絶滅危惧	存続基盤が脆弱な種	NT
情報不足	評価するだけの情報が不足している種	DD
絶滅のおそれのある地域個体群	地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの	LP
要注目種	静岡県独自のカテゴリー	
現状不明	現状が不明な種	N-I
分布上注目種等	絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種	N-II
部会注目種	その他各部会で注目すべきと判断した種	N-III

1 調査の目的

平成26年に登録された南アルプスユネスコエコパーク（生物圏保存地域）は、登録地域内の自然環境等の状況について10年ごとにユネスコへの報告が求められており、登録地域内で計画されている中央新幹線建設事業による自然環境への影響が懸念されていることから、本業務では、動植物の生育生息状況調査を実施し、自然環境の変化を把握する。

2 調査概要

2-1 調査項目及び調査方法

植物、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、淡水魚類、昆虫類、底生動物の7分類群を対象に、表1のとおり現地調査を実施した。

表1 調査手法及び対象

調査項目	調査手法		対象種
植物	目視調査	踏査によって目視確認した対象種を記録した。	植物全般
	植生調査	コドラートを設定し、群落の構造と成立状況を記録した。また UAV による空中撮影を実施した。	植物全般
哺乳類	目視調査	踏査によって目視確認した哺乳類、糞・足跡・食痕などを記録した。	哺乳類全般
	捕獲調査	林道などにかすみ網等を設置し、夕方から夜間にかけて捕獲調査を実施した。	コウモリ類
		墜落缶及びかご罠によって捕獲調査を実施した。	カワネズミ
自動撮影カメラ調査	自動撮影のカメラを設置し、撮影記録から種類と生態を確認した。	哺乳類全般	
鳥類	目視・鳴き声確認調査	踏査によって目視や双眼鏡で見られた鳥類と鳴き声で判別された鳥類の種類と数を記録した。	鳥類全般
両生類・爬虫類	目視調査	踏査によって見つけ取りを実施した。	主にカエル類、サンショウウオ類
	捕獲調査	踏査し、陸上や水中の石を動かして見つかった個体を記録した。	
	環境 DNA 調査	採水した水試料から DNA を抽出し、データ解析を行った。	サンショウウオ類
淡水魚類	捕獲調査	釣りによって、主に成魚の捕獲を行った。	魚類全般
昆虫類	捕獲調査	捕虫網によって見つけ取りを実施した。	主にチョウ類
底生動物	捕獲調査	タモ網とサーバーネットによって底生動物の採集を実施した。	底生動物全般

2-2 調査地区及び回数

調査地区及び回数は、表2のとおりである。また、調査位置を図1に示す。

なお、調査地区Cは、昨年度に引き続いて林道の通行ができない状況であったため、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、底生動物に関しては、C地区の手前をC'地区として調査を実施した。

表2 調査地区及び回数

調査日	延べ調査人数			調査地区									
	仕様	計画	実績	B	C(C')	D	E	F	G	H	I	K	小溪流
植物	16人日	16人日	18人日		○	○	○						
植生	6人日	6人日	6人日		○	○	○						
哺乳類	18人日	18人日	32人日		○	○	○	○				○	
鳥類			16人日		○	○	○	○				○	
両生類・爬虫類	12人日	12人日	13人日 (15人日) ^{*2}	○	○		○		○				○ ^{*1}
淡水魚類	16人日	18人日	31人日	西俣、東俣、奥西河内川、赤石沢									
昆虫類	16人日	16人日	16人日		○	○	○	○	○	○	○	○	
底生動物	6人日	6人日	6人日										○
合計	92人日		138人日										

注) ○調査実施 *1: 底生動物調査時に実施 *2: 底生動物調査時を合わせた人日

注) 平成26年度調査以降一部調査地区を変更して調査を実施している項目あり

2-3 調査実施者

調査実施者は、次のとおりである。

業務名：平成30年度 環環創委第6号 南アルプス動植物環境調査業務

受託者：株式会社 環境アセスメントセンター

住 所：静岡県静岡市清閑町13番12号

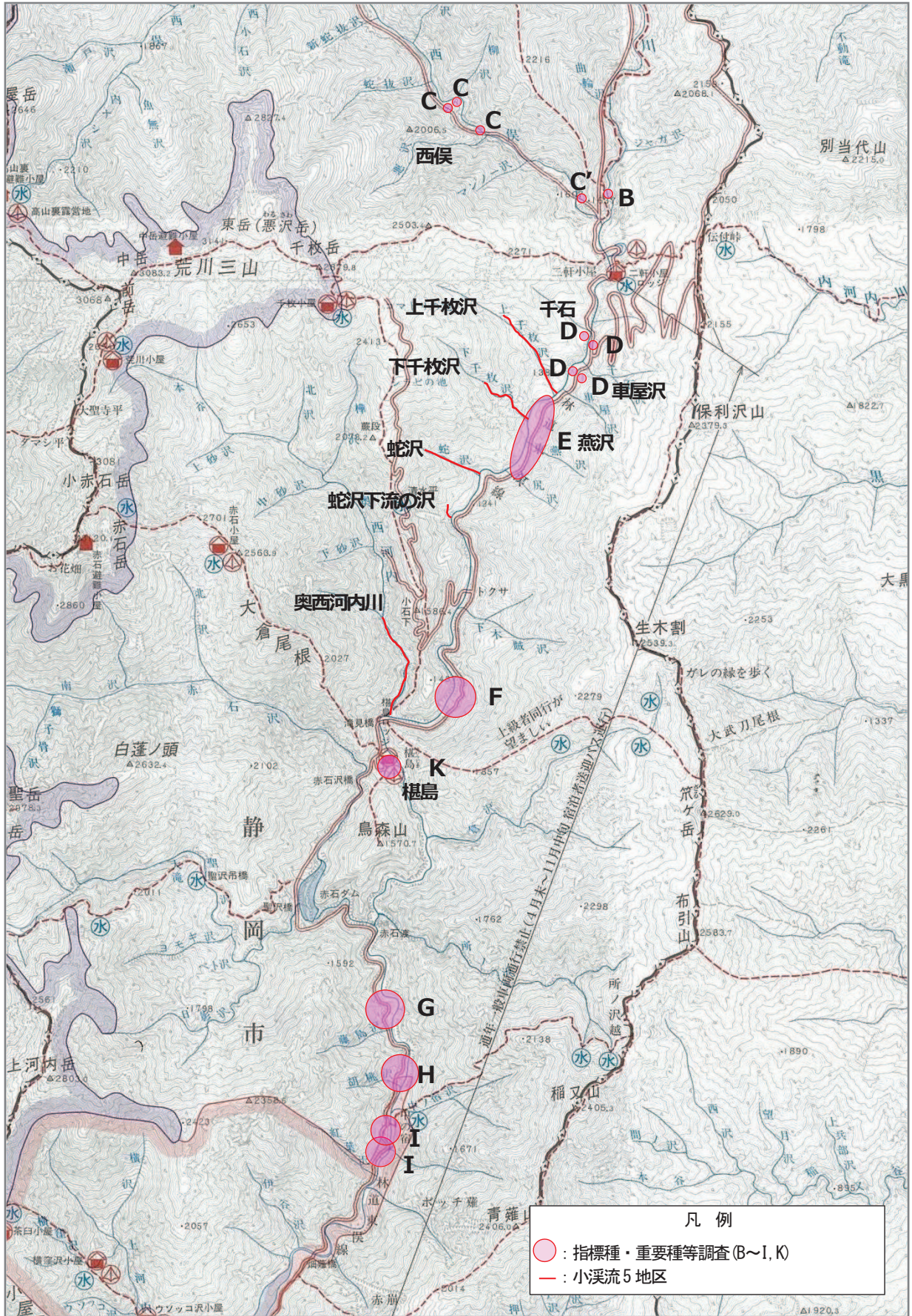


図1 調査位置図

3 調査結果

3-1 植物

(1) 生育種

本年度は指標種・重要種に該当するものとして、ヒロハノヘビノボラズ、ヤマシャクヤクなど21種が確認された。そのうち、ヒメハナワラビ、アオホオズキ、ホソバムカシヨモギの3種は、中央新幹線建設事業実施主体の現地調査（以下、「リニア調査」とする。）及び平成26年度以降の調査では初めて確認された種である。

表3-1 確認した指標種・重要種（*過年度未確認の重要種）

区分	科名	種名	重要種選定基準				現地確認					
			①	②	③	④	リニア	H26	H27	H28	H29	H30
指標種30種	ヒカゲノカズラ	アスヒカズラ	-	N-III	-	-	○	○	-	-	-	-
	ナデシコ	ヒゲネワチガイソウ	-	N-III	-	-	-	○	○	-	-	-
	マツブサ	チョウセンゴミシ	-	N-I	-	○	○	-	-	-	-	-
	メギ	ヒロハノヘビノボラズ	-	EN	-	-	○	○	○	○	○	○
	ウマノスズクサ	ウスバサイシン	-	N-III	-	-	○	-	○	-	-	○
	ボタン	ヤマシャクヤク	NT	NT	指定	-	○	○	○	○	○	○
	ケシ	ナガミノツルキケマン	NT	EN	-	○	○	○	○	-	-	○
	ユキノシタ	ヤシャビシャク	NT	VU	指定	-	○	-	-	-	-	-
	バラ	サナギイチゴ	VU	-	-	-	○	○	○	○	○	○
	ジンチョウゲ	チョウセンナニワズ	VU	VU	-	-	○	○	○	○	○	○
	ウリ	ミヤマニガウリ	-	N-III	-	-	○	○	○	○	○	○
	アカバナ	トダイアカバナ	VU	VU	指定	-	○	○	○	○	-	○
	サクラソウ	シナノコザクラ	NT	VU	指定	-	○	-	-	-	-	-
	リンドウ	ホソバノツルリンドウ	VU	VU	指定	-	○	○	○	-	-	-
	ガガイモ	クサタチバナ	NT	EN	-	-	○	-	-	-	-	-
	レンブクソウ	レンブクソウ	-	N-III	-	-	○	○	○	○	○	○
	マツムシソウ	ナベナ	-	N-III	-	○	○	○	○	-	-	-
	キク	トダイハハコ	VU	VU	指定	-	○	○	-	-	-	○
	キク	カワラニガナ	NT	NT	-	○	○	○	○	○	○	○
	ヒガンバナ	ヒメニラ	-	N-III	-	-	○	○	○	○	○	-
	イネ	キダチノネズミガヤ	-	N-I	-	-	○	-	-	-	-	-
	サトイモ	ヒトツバテンナンショウ	-	VU	-	-	-	○	○	○	○	○
	カヤツリグサ	ヒカゲシラスゲ	-	N-III	-	○	○	-	-	-	-	-
	ラン	ホテイラン	EN	CR	指定	○	○	-	-	○	-	-
	ラン	ユウシュンラン	VU	EN	-	-	○	-	○	-	-	-
	ラン	イチヨウラン	-	VU	指定	○	○	-	○	○	○	○
	ラン	トラキチラン	EN	EN	指定	-	○	-	-	-	-	-
	ラン	アオキラン	CR	N-III	指定	-	○	-	○	-	-	○
ラン	クロクモキリソウ	EN	EN	-	○	-	○	○	○	○	○	
ラン	ホザキイチヨウラン	-	N-III	指定	-	○	-	○	○	○	○	
重要種8種	セリ	ホソバハナウド	CR	VU	指定	-	-	-	○	○	○	-
	キジカクシ	ヤマアマドコロ	-	N-I	-	-	-	○	-	-	-	-
	シソ	タチキランソウ	NT	NT	-	-	-	-	○	-	-	-
	ユリ	オオウバユリ	-	N-III	-	-	-	-	○	○	-	○
	スマレ	ミヤマスマレ	-	EN	指定	-	-	-	-	-	○	○
	ハナヤスリ	ヒメハナワラビ *	VU	VU	指定	-	-	-	-	-	-	○
	ナス	アオホオズキ *	VU	NT	-	-	-	-	-	-	-	○
キク	ホソバムカシヨモギ *	VU	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
		38種	21種	36種	14種	8種	27種	18種	23種	16種	14種	21種

①環境省レッドリスト(2017) ②静岡県版レッドリスト(2017) ③国立、国定公園特別地域内指定植物(環境庁, 1982)

④「平成26年度環都委第7号 南アルプス登録申請地域内環境調査業務」により重点的に調査を行うとした種

(2) 各調査地区の確認状況

調査地区Cでは、ミズナラ群落やカラマツ植林などの森林域のほか、河原や造成地などに草地環境が成立しており、森林性植物のほかにも林縁性や草原性及び河原性の植物がみられた。

調査地区Dではウラジロモミ植林やカラマツ植林などの森林域、テンニンソウなどの草地環境が成立しており、森林性植物のほかにも林縁性や草原性の植物もみられた。

調査地区Eは森林域と河川敷で構成され、オオバヤナギ・ドロノキ群集やヤマハンノキ群落、カラヨモギ・フジアザミ群落などの河辺や溪流辺の植生が成立していた。

(3) 植生

指標種・重要種の生育環境である植生状況を把握するため、調査地区C、D、Eの6群落（コメツガ群落、ミズナラ群落、カラマツ植林、ウラジロモミ群落、カラヨモギ・フジアザミ群落、タニガワハンノキ群落）を対象にコドラートを設置した定点調査のほか、UAVを用いた空中撮影も実施した。高木性のコメツガ群落、ミズナラ群落、ウラジロモミ群落では森林性植物が多数を占めていた。一方、同じく高木性の植物群落であるカラマツ植林は、高木層の植被率が低く林内が明るいため、林縁性植物や草原性植物の種数が多かった。河川沿いに成立する木本群落であるタニガワハンノキ群落では、森林性植物のほか、林縁性植物や草原性植物の割合も高かった。

攪乱圧の高い砂礫地に成立するカラヨモギ・フジアザミ群落では、草原性植物の割合が高いものの、河原植物や溪岸性植物も出現することが特徴的であった。

3-2 哺乳類

(1) 生息種

本年度確認された哺乳類は15種であり、そのうち指標種に該当するのはカワネズミ、ヒナコウモリ、ヒメホオヒゲコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、コテングコウモリ、ニホンリスの6種であった。そのうち、ヒナコウモリは、リニア調査では確認されておらず、平成26年度の調査以来確認されていない種である。

表3-2 確認した指標種

区分	科名	種名	重要種選定基準				現地確認					
			①	②	③	④	リニア	H26	H27	H28	H29	H30
指標種 24種	トガリネズミ	アズミトガリネズミ	-	NT	NT	○	-	-	-	-	-	-
		カワネズミ	-	-	NT	○	○	-	-	○	-	○
	モグラ	ミズラモグラ	-	NT	DD	-	○	○	-	-	-	-
	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	-	-	NT	-	○	-	○	○	○	-
		コキクガシラコウモリ	-	-	NT	-	○	-	-	-	○	-
	ヒナコウモリ	クビワコウモリ	-	WU	VU	-	○	-	-	-	-	-
		ヤマコウモリ	-	WU	DD	-	-	-	-	-	-	-
		モリアブラコウモリ	-	VU	DD	-	-	-	-	-	-	-
		チチブコウモリ	-	LP	VU	-	-	-	○	-	-	-
		ニホンウサギコウモリ	-	-	DD	-	○	○	○	○	○	-
		ヒナコウモリ	-	-	DD	-	-	○	-	-	-	○
		カグヤコウモリ	-	-	DD	-	○	-	-	-	○	-
		ヒメホオヒゲコウモリ	-	-	N-II	-	○	○	○	○	○	○
		モモジロコウモリ	-	-	NT	-	○	-	-	-	○	-
		ノレンコウモリ	-	WU	VU	-	○	-	-	-	○	-
		クロホオヒゲコウモリ	-	WU	DD	-	○	-	-	-	○	○
		テングコウモリ	-	-	DD	-	○	-	-	-	○	-
		コテングコウモリ	-	-	DD	-	○	○	-	-	○	○
		ヤマネ	ヤマネ	天	-	DD	-	○	-	-	-	-
	リス	ニホンリス	-	-	N-III	-	○	○	○	-	○	○
		ムササビ	-	-	NT	-	○	-	-	-	-	-
		ニホンモモンガ	-	-	DD	-	○	-	○	-	-	-
	イタチ	オコジョ	-	NT	DD	○	○	-	-	-	-	-
	ウシ	ニホンカモシカ	特天	-	-	-	○	○	○	-	○	-
	8科	24種	2種	9種	23種	3種	19種	7種	7種	4種	12種	6種

①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号) 特天：特別天然記念物、天：天然記念物 ②環境省レッドリスト(2017)

③静岡県版レッドリスト(2017)

④「平成26年度環都委第7号 南アルプス登録申請地域内環境調査業務」により、重点的に調査を行うとした種

(2) 生息状況

本年度確認された指標種・重要種は、既往調査で確認されている種であり、いずれも調査地区及びその周辺では低密度に生息している状況が継続しており、現時点では生息状況に大きな変化はないと推測される。

3-3 鳥類

(1) 生息種

本年度確認された鳥類は40種であり、そのうち重要種に該当するのはオシドリ、ヨタカ、コノハズク、オオアカゲラの4種であった。また、コノハズク、オオアカゲラの2種は、平成26年度以降の調査では初めて確認された種である。

表3-3 確認した重要種(*印は過年度未確認の種)

科名	種名	重要種選定基準				現地確認					
		①	②	③	④	リニア	H26	H27	H28	H29	H30
キジ	ヤマドリ	-	-	-	NT	○	-	○	○	-	-
カモ	オシドリ	-	-	DD	-	○	-	○	○	○	○
ヨタカ	ヨタカ	-	-	NT	VU	○	-	-	-	○	○
チドリ	イカルチドリ	-	-	-	NT	○	-	-	-	-	-
ミサゴ	ミサゴ	-	-	NT	N-III	○	-	○	-	-	-
タカ	ハチクマ	-	-	NT	VU	○	-	-	-	-	-
	ハイタカ	-	-	NT	VU	○	-	-	-	-	-
	オオタカ	-	-	NT	NT	○	-	-	-	-	-
	サシバ	-	-	VU	VU	○	-	-	-	-	-
	イヌワシ	天	国内	EN	CR	○	-	-	-	-	-
	クマタカ	-	国内	EN	VU	○	○	-	-	-	-
フクロウ	コノハズク*	-	-	-	EN	○	-	-	-	-	○
	フクロウ	-	-	-	NT	○	-	-	○	-	-
カワセミ	アカショウビン	-	-	-	VU	○	-	-	○	○	-
	ヤマセミ	-	-	-	EN	○	-	-	-	-	-
キツツキ	オオアカゲラ*	-	-	-	NT	○	-	-	-	-	○
ハヤブサ	ハヤブサ	-	国内	VU	VU	○	-	-	-	-	-
サンショウクイ	サンショウクイ	-	-	VU	EN	○	-	-	-	-	-
ヒタキ	マミジロ	-	-	-	VU	-	○	-	-	-	-
	ノビタキ	-	-	-	N-II	○	-	○	-	-	-
	コサメビタキ	-	-	-	VU	○	-	○	-	-	-
ホオジロ	ミヤマホオジロ	-	-	-	NT	○	○	-	-	-	-
13科	22種	1種	3種	11種	21種	21種	3種	5種	4種	3種	4種

①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号) 特天:特別天然記念物、天:天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号) 国内:国内希少野生動植物種、国際:国際希少野生動植物種

③環境省レッドリスト(2017) ④静岡県版レッドリスト(2017)

(2) 生息状況

重要種のうち、オシドリは5月、7月及び9月に田代ダムで、雌雄2個体(ペア)が確認されており、周辺で繁殖している可能性が示唆された。ヨタカとコノハズクは夏鳥であり、いずれも調査地区及びその周辺では初夏から夏季に低密度で生息している状況、オオアカゲラは、リニア報告書で確認されており、確認状況から、調査地区及びその周辺に低密度で生息している状況と考えられることから、確認有無に違いはあるものの、生息状況に大きな変化はないと推測される。

3-4 両生類・爬虫類

(1) 生息種

本年度確認された両生類は4種、爬虫類は1種であり、そのうち指標種・重要種に該当するのはハコネサンショウウオ、アズマヒキガエル、タゴガエル類、カジカガエルの4種であった。

表3-4 確認した指標種・重要種

区分	分類群	種名	重要種選定基準			現地確認					
			①	②	③	リニア	H26	H27	H28	H29	H30
指標種4種	両生類	ヒダサンショウウオ	NT	VU	○	○	○	○	○	○	-
		アカイシサンショウウオ	EN	CR	○	-	-	-	-	-	-
		ハコネサンショウウオ	-	VU	○	○	○	○	○	-	○
		タゴガエル類	-	N-III	○	○	○	○	○	○	○
重要種3種	両生類	アズマヒキガエル	-	N-III	-	○	○	○	○	○	○
		カジカガエル	-	NT	-	○	○	○	○	○	○
		ナガレタゴガエル	-	DD	-	○	-	○	○	○	-
	種数	7種	2種	7種	4種	6種	5種	6種	6種	5種	4種
重要種2種	爬虫類	ヒガシニホントカゲ	-	N-II	-	○	○	○	○	-	-
		シロマダラ	-	DD	-	○	-	-	-	-	-
	種数	2種	0種	2種	0種	2種	1種	1種	1種	0種	0種

①環境省レッドリスト(2017) ②静岡県版レッドリスト(2017) ③平成26~29年度における有識者の調査報告書により、重点的に調査を行うとした種

(2) 生息状況

指標種・重要種のうち、ハコネサンショウウオは幼生、アズマヒキガエルは幼生から成体、カジカガエルは卵塊から成体、タゴガエル類は幼体から成体までを確認していることから周辺で繁殖していると考えられ、現時点では生息状況に大きな変化はないと推測される。

3-5 淡水魚類

(1) 生息種

本年度確認された淡水魚類は1種1亜種であり、そのうち指標種に該当するのはアマゴの1種であった。

表3-5 確認した指標種

区分	科名	種名	重要種選定基準		現地確認						
			①	②	リニア	H26	H27	H28	H29	H30	
指標種3種	サケ	ヤマトイワナ	-	CR	-	○	○	○	○	○	-
		アマゴ	NT	VU	○	○	○	○	-	○	
	カジカ	カジカ	NT	CR	-	-	-	○	-	-	
	2科	3種	2種	3種	1種	2種	2種	3種	1種	1種	

①環境レッドリスト(2017) ②静岡県版レッドリスト(2017)

(2) 生息状況

ヤマトイワナの特徴をもち、かすかにニッコウイワナ的な要素が認められるものは確認されたが、典型的なヤマトイワナは確認されなかった。

3-6 昆虫類

(1) 生息種

本年度は指標種・重要種に該当するものとして、クモマツマキチョウ、ミヤマシロチョウ、シジミチョウ類（アカシジミ、エゾミドリシジミ）、フタスジチョウ、コムラサキ、ウラジャノメの7種が確認された。

表3-6 確認した指標種・重要種

区分	科名	種名	重要種選定基準			現地確認					
			①	②	③	リニア	H26	H27	H28	H29	H30
指標種 22 種	コガネムシ	オオチャイロハナムグリ	NT	DD	●	○	-	○	○	-	-
	ナガレトビケラ	オオナガレトビケラ	NT	-	●	○	-	-	-	-	-
	シロチョウ	クモマツマキチョウ	NT	EN	●	○	○	○	-	○	○
		ミヤマシロチョウ	VU	EN	●	○	○	○	-	-	○
	シジミチョウ	ウラゴマダラシジミ	-	-	●	-	○	○	-	-	-
		ウラキンシジミ	-	-	●	○	○	○	-	-	-
		オナガシジミ	-	N-II	●	-	-	-	-	-	-
		ウスイロオナガシジミ	-	N-II	●	-	○	-	-	-	-
		アカシジミ	-	-	●	○	○	○	○	-	○
		ウラクロシジミ	-	NT	●	-	○	-	-	-	-
		ミドリシジミ	-	-	●	○	-	○	○	○	-
		アイノミドリシジミ	-	-	●	○	○	○	○	-	-
		メスアカミドリシジミ	-	-	●	○	○	-	-	-	-
		エゾミドリシジミ	-	-	●	○	○	○	○	○	○
		オオミドリシジミ	-	-	●	-	-	-	-	-	○
		ジョウザンミドリシジミ	-	N-I	●	-	-	-	-	-	-
	フジミドリシジミ	-	N-III	●	-	-	○	○	-	-	
	カラスシジミ	-	N-II	●	-	○	○	○	-	-	
	ミヤマカラスシジミ	-	-	●	○	-	○	-	-	-	
	タテハチョウ (重要種と重複)	オオイチモンジ	VU	CR	●	-	-	-	-	-	-
		コムラサキ	-	N-II	●	○	○	○	○	○	○
		オオムラサキ	NT	N-III	●	○	○	○	-	-	-
重要種 15 種	ササキリモドキ	スルガセモンササキリモドキ	-	N-III	-	○	-	-	-	-	
	バッタ	タカネヒナバッタ	-	N-III	-	○	-	-	-	-	
	カスミカメムシ	リンゴクロカスミカメ	NT	-	-	○	-	-	-	-	
		アリ	ツノアカヤマアリ	DD	-	-	○	-	-	-	-
	ミツバチ	エゾアカヤマアリ	VU	-	-	-	-	○	-	-	
		ナガマルハナバチ	DD	-	-	-	○	-	-	-	
	ウスリーマルハナバチ	ウスリーマルハナバチ	DD	-	-	-	-	○	-	-	
		ニセヒメガガンボ	アルプスニセヒメガガンボ	DD	-	-	○	-	-	-	
	クサアブ	ヒメシマクサアブ	DD	-	-	○	-	-	-		
	タテハチョウ (指標種と重複)	オオミスジ	-	N-II	-	○	○	-	○	-	
		フタスジチョウ	-	VU	-	-	○	○	○	-	
		クモマベニヒカゲ	NT	N-II	-	-	○	-	-	-	
		ベニヒカゲ	NT	N-II	-	○	-	○	-	-	
		ウラジャノメ	-	NT	-	○	○	○	-	-	
	ヤママユ	オナガミズアオ	NT	-	-	○	-	-	-		
	13科	37種	16種	19種	22種	23種	18種	19種	10種	5種	7種

①環境省レッドリスト(2017) ②静岡県版レッドリスト(2017)

③「平成27年度環創委第5号 南アルプス動植物環境調査業務」におけるモニタリング対象の指標種

(2) 生息状況

例年よりサクラの開花や梅雨明けが早く、昆虫類の発生も早かったと考えられる。コムラサキは確認地区数が4地区と比較的多かったが、他の種は1～2地区での確認だけであった。

3-7 底生動物

(1) 生息種

確認された底生動物は61種である。底生動物相のほとんどは昆虫綱の種であり、特にカゲロウ目の種数が多かった。

重要種に該当するものは確認されなかった。

表3-7 確認した重要種

科名	種名	重要種選定基準		現地確認				
		①	②	リニア	H27	H28	H29	H30
ナガレトビケラ	オオナガレトビケラ	NT	-	○	-	○	○	-
アミカモドキ	二ホンアミカモドキ	VU	-	○	-	-	-	-
2科	2種	2種	0種	2種	0種	1種	1種	0種

①環境省レッドリスト(2017) ②静岡県版レッドリスト(2017)

(2) 生息状況

確認した種は、ミヤマウズムシ、イワヒラタカゲロウ、オナガヒラタカゲロウなど高山帯や源流から山地溪流に生息する種のほか、シロハラコカゲロウなど山地溪流から平地の河川までの広範囲に分布する種まで様々であった。

4 考察

本調査では、43種の指標種・重要種を確認した。分類群ごとの確認種数を、表4-1に示す。今回、リニア調査では確認されていない9種を確認し、そのうち3種は新規確認種（ヒメハナワラビ、アオホオズキ、ホソバムカシヨモギ）であった。このように、本調査は既に5年間継続しているものの、調査地域には未確認の重要な動植物が生息・生育している可能性がある。

本調査地域において、動植物の生息・生育状況は、その年の気象条件や調査日の天候により変動があるため、毎年同じように指標種・重要種の情報が得られることはない。しかし、環境の状況を的確に示す指標種・重要種もあることから、継続した調査を行うことによって生息状況の変化を捉えることが可能と考えられる。したがって、今後も同様の調査を行うことで指標種・重要種の情報を蓄積していく必要がある。

表4-1 指標種・重要種の確認状況

分類群	平成30年度確認した 指標種・重要種				
	リニア調査 確認なし	H26～H29 調査 確認なし	新規確認		
植物	21	7	3	3	ヒメハナワラビ、アオホオズキ、 ホソバムカシヨモギ
哺乳類	6	1	-	-	-
鳥類	4	-	2	-	-
両生類・爬虫類	4	-	-	-	-
淡水魚類	1	-	-	-	-
昆虫類	7	1	-	-	-
底生動物	-	-	-	-	-
計	43種	9種	5種	3種	

【平成 30 年度調査で確認された指標種・重要種】



ヒメハナワラビ (県 VU、環境省 VU、指定)



アオホオズキ (県 NT、環境省 VU)



ホソバムカシヨモギ (環境省 VU)



ヒナコウモリ (県 DD)



オシドリ (環境省 DD)



ハコネサンショウウオ (県 VU)



アマゴ (県 VU、環境省 NT)



コムラサキ (県 N-II)